

RPA 2.0 を実現する ソフトウェアロボット・フレームワーク

ROBOWARE -- The Best of Software Robot Framework --

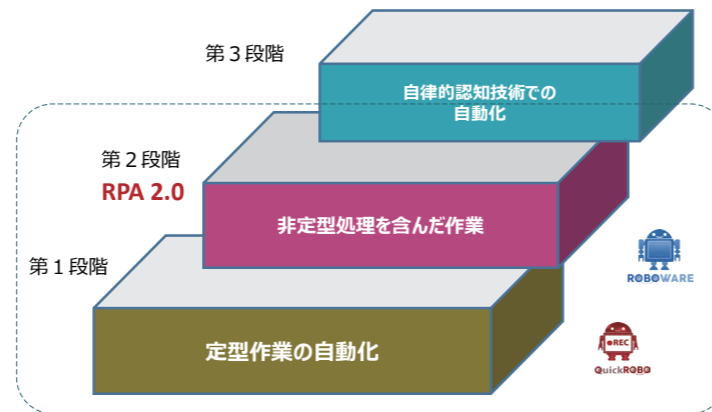
ソフトウェアロボットの ROBOWARE なら、複雑な仕事も代行します

RPA による働き方改革は新たな進化を遂げます

01 RPA は次のステージへ

RPA (Robotic Process Automation) の第 1 段階は、パターン化できる単純作業の定型業務を対象で、その多くが RDA (Robotic Desktop Automation) と呼ばれる個々の PC 操作の自動化が中心でした。

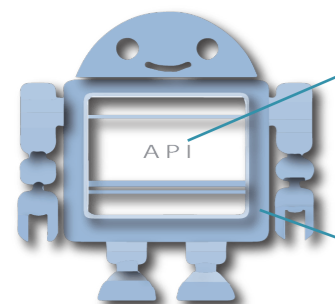
本来求められている RPA は、AI をはじめとした様々なアプリケーションと連携して広範囲の業務の自動化を期待するものであるため、第 2 段階の非定型業務に対応できることが、企業にとっては早急な課題となっております。その RPA 2.0 は、人の判断が必要だった経験に基づく複雑な業務や、メールなどの非構造化データを取扱う業務、ロボット同士の相互連携が必要な業務などについても対応でき、幅広い分野で働き方改革の推進に大いに貢献します。



02 非定型業務の自動化を実現する ROBOWARE

ROBOWARE は、開発型のソフトウェアロボットのフレームワークです。すでに、ソフトウェアロボットの枠組みが用意されているので、ロボット開発のハイレベルなスキルは必要なく、ロボットへの操作指示を Ruby や PHP などの汎用的な高級言語を使ってプログラミングすることによって、パターン化できない非定型業務についても自動化を可能にします。

Software Robot Framework



ユーザ編集域

API を使って
汎用言語でコーディング

共通域

枠組みが用意されている

ROBOWARE は開発を簡単にするために、数多くの API が用意されており、画面操作の動きをアナライザーで作成したデータなど、個々の引数を API に渡す方式で 480 通り以上の多機能操作を実現できます。また、個別 PC の RDA や一般的な RPA ツールでは実現が難しい IT 統制上必須であるソフトウェアロボットの管理は、ROBOWARE であれば、業務ごとに使用できるロボットを制限するなど、独自の ID を使って動作統制が可能です。そして、非定型業務の自動化に求められる同時多重処理や、逐次のジョブ連携など多彩な処理が、ROBOWARE によるソフトウェアロボットの連携で可能となります。

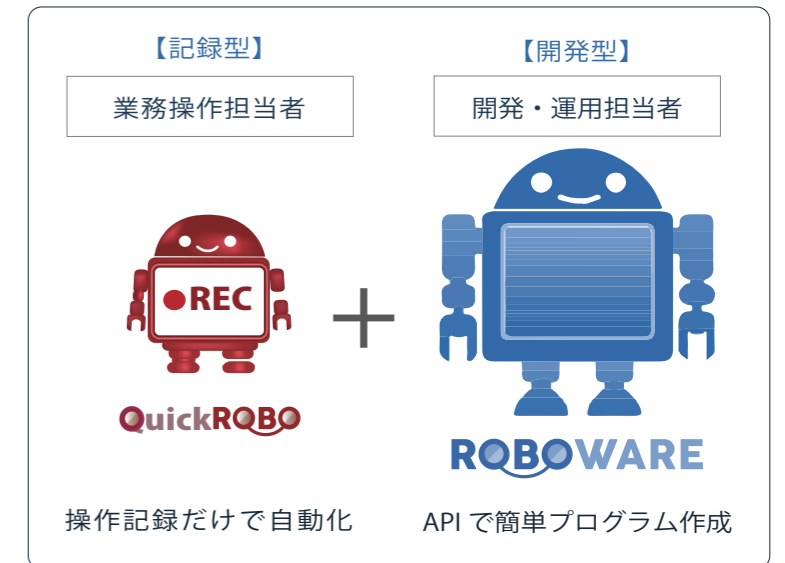
03 ROBOWARE の進化

RPA を実践することにおいて、単純操作をもっと簡単に自動化したいというニーズは非常に大きいです。その期待に応えるために、開発型 RPA ツールの ROBOWARE は、PC 操作を簡単に自動化できる記録型ツールの QuickROBO というオプションを加えることで進化しました。

プログラミング経験のない業務担当者にとっては、ロボット開発はハードルが高く、ノンプログラミングの RPA ツールであっても、その使い方を覚えるのはたいへんでした。QuickROBO は、PC の画面上で行なう業務操作を手順通りに記録するだけで作成が可能のため、誰でも簡単に短時間に自動化ができます。

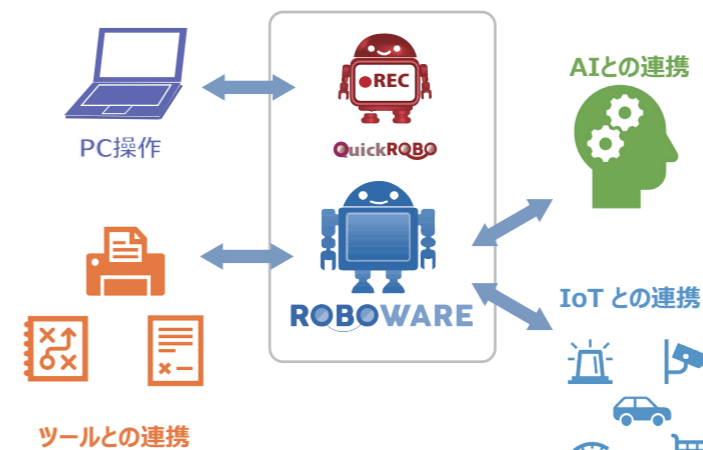
条件判定や、エラー処理、アプリケーション連携など、カスタマイズが必要な設定は、ROBOWARE でプログラム開発をして、画面操作の部分だけ ROBOWARE から QuickROBO を呼び出すことも可能です。もちろん、ROBOWARE 導入済みの PC であれば、QuickROBO 単独のジョブでもスケジュールして実行できます。

簡単な操作は記録型、複雑な処理はプログラミングすることで、RPA の生産性は大幅に改善されます。



04 ROBOWARE が切り開く RPA の未来

RPA 2.0 では、バックオフィス業務のみならず、複雑な情報システムのオペレーションにおいても、ソフトウェアロボットが活躍します。次期システムの開発においても、ロボットに AI の頭脳や IoT の手足を連携することにより、今までにない戦略的な業務オペレーションを実現できます。



処理速度や正確性のアップによる生産性の向上に加え、ソフトウェアロボットは多種多様なシステムとの連携により、人間の能力では無理とされていた膨大なデータ処理が可能となり、画像や音声などを利用した高度な分析まで、企業の成長を圧倒的なパワーで後押しします。

現在企業や組織が積極的に取り組んでいる働き方改革においても、ソフトウェアロボット同士の中継が可能な ROBOWARE は、単独 PC のオペレーション自動化にとどまらず、複数人で連携して行なっていた業務でさえ、人と同様にロボット同士が複数台連携してチームとしてお互い助け合っ、自動的にオペレーションをすることが可能です。

ROBOWARE によって、その企業独自の業務に最適なソフトウェアロボットを手軽に開発できるため、導入した企業は、RPA 2.0 を推進し、企業の業績向上や社会に貢献する次のステージに向かって 1 歩前へ踏み出すことが可能になります。

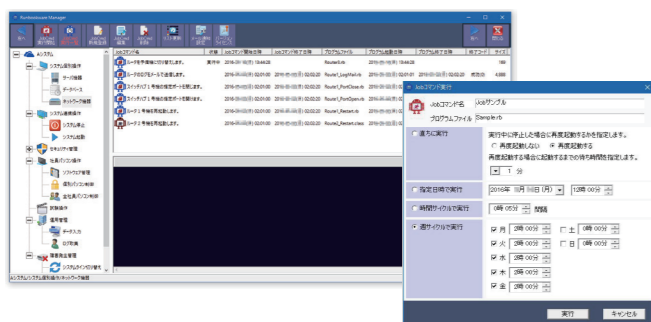
ROBOWARE (ロボウェア)

ROBOWARE は、PCで行なう業務をロボット化させるフレームワーク・ソフトウェアです。数多くのAPIを使って、汎用言語 (Ruby,PHP,Java,C#)によるソフトウェアロボット開発を手軽にできる開発型RPAツールです。

マウスやキーボードによるPC操作はもちろん、専用のアナライザーを使用することにより、スクリーン上での操作対象は、テキスト (文字認識)、グラフィックパターン (画像認識) の両方に対応し、もちろん固定座標やRGB値 (色) による指定も可能です。

オプションである記録型ツールのQuickROBOを使用すれば、操作を記録するだけでも自動化が可能になり、簡単な定型業務から、アプリケーション連携が必要な複雑な業務まで、幅広いRPA(Robotic Process Automation)を実現できます。

ロボット作成のための、ROBOWAREで提供されるAPIは80種近くあり、これらのAPIで480通り以上の多彩な操作機能を実現できます。サンプルスクリプトも充実しておりますので、高度な知識がなくても短期間でソフトウェアロボットの開発が可能です。

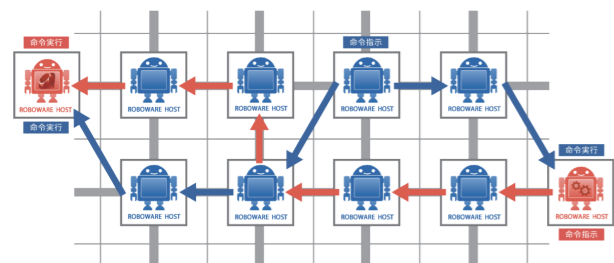


統制 — Job Manager

- どのロボットに、いつどんな処理を実行させるのかを制御
- 実行プログラムを、Job コマンドとして登録・実行・管理
- 二重起動制御、完了通知 (メール) 設定が可能
- ROBOWARE、QuickROBO 両方のジョブを登録、実行可能

登録ジョブのスケジュール設定

- 即時実行
- 時間サイクルで実行
- 指定日時で実行
- 週サイクルで実行



自由度の高い構成

- バッチあるいはユーティリティコマンドから、起動停止が可能
- プログラム実行時に引数を指定可能
- 専用サーバ不要
- 制御方向は自由に設定可能
- グリッド型ネットワークの実現
- TCP 通信経由で、リレー (中継) して実行可能
- DHCP 対応可能、NAT 対応可能
- 相互バックアップや冗長化機能

稼働環境

- Windows OS (32bit/64bit) : Server 2008 ~ 2012, Windows 7 ~ 10
- Linux OS (32bit/64bit) : Redhat 4 ~ 7, CentOS 4 ~ 7

開発言語

- Ruby, PHP, Java,C#

操作記録オプション



QuickROBO は、業務担当者が操作するマウスやキーボードを使って操作する手順を、ソフトウェアロボットとして、そのまま記録し自動的に実行します。

- テキスト・グラフィックの自動判別
- 幅広いアプリに対応
- マクロレス、フローレス、プログラムレスの簡単操作
- ROBOWARE連携スケジューリング、単体実行可能

* QuickROBOの購入は、ROBOWAREの利用者が対象となります。

*「ROBOWARE」は、株式会社シーイーシーカスタマーサービスの登録商標です (登録第5932207号)

Software Robot Framework

ROBOWARE for RPA 2.0